建もの旅日記　第10回

金寿根の建築を訪ねて

伝統と現代の調和に学ぶ

㈳日本建築家協会 沖縄支部 幹事
金城　傑　㈱K・でざいん

1985年の冬、沖縄県庁舎行政棟の実施設計を終えた10名余のメンバーから、「記念に海外の建築を見る旅がしたい」という声が上がった。

それぞれが、所属する会社から派遣されていた為、あまり多くの日程は組めない事情から、2泊3日程度で行ける近い外国という事になり、日本の大学で建築を学び、母国の韓国で近づいているソウルオリンピックのスタジアムの設計をはじめ、当時、韓国で最も活躍していた金寿根氏の建築を訪ねる事となった。

その頃、海外の情報誌は今ほど無く、更に韓国建築の情報を伝える資料もほとんど無かったので、日本の建築雑誌で紹介されている氏に関する資料をお互いに持ち寄り、訪問先と旅程を吟味した。

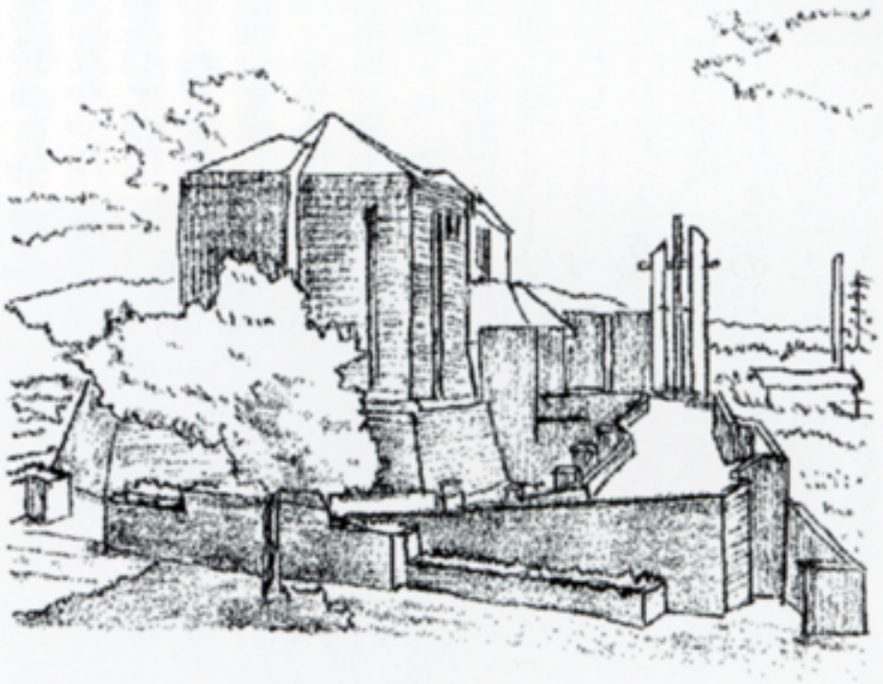
韓国の建築視察は、釜山を皮切りに最終地のソウルまで、全てバス移動で行なったが、雑誌の地図や写真の切抜きだけを頼りに、現地のガイドやバスの運転手と、ここでもない、あそこでもない、を繰り返しながら、全員総出のヤジキタ状態。

時には、ガイドやバスの運転手に「こんな日本の観光客は初めて」とぶつぶつ言われながら、車窓から、ここではないか、あそこではないか、と全員で必死に探すと、初めての地でも何とか探せるものである。

やっとの思いで氏の作品に出会った感動は、旅の最後まで続き、ガイドや運転手と共に大喜びしながら、京東教会や馬山教会を始め、韓国の各地に有る教会やソウルのオリンピックスタジアム、そして氏のアトリエ（空間社）等々、光と煉瓦を巧みに操り、伝統と現代を調和させながら、非常に落ち着きのあるすばらしい作品を大いに堪能した。

一般のツアーと違い、全て自分達の目的（建築）だけを堪能するための旅は、初めての体験でもあったが、さながら建築少年探偵団の様でもあり、とても刺激的な楽しい旅となった。

そんな、わくわくする建築の旅を今後も続けて行きたいと思う。



馬山教会（筆者スケッチ）